

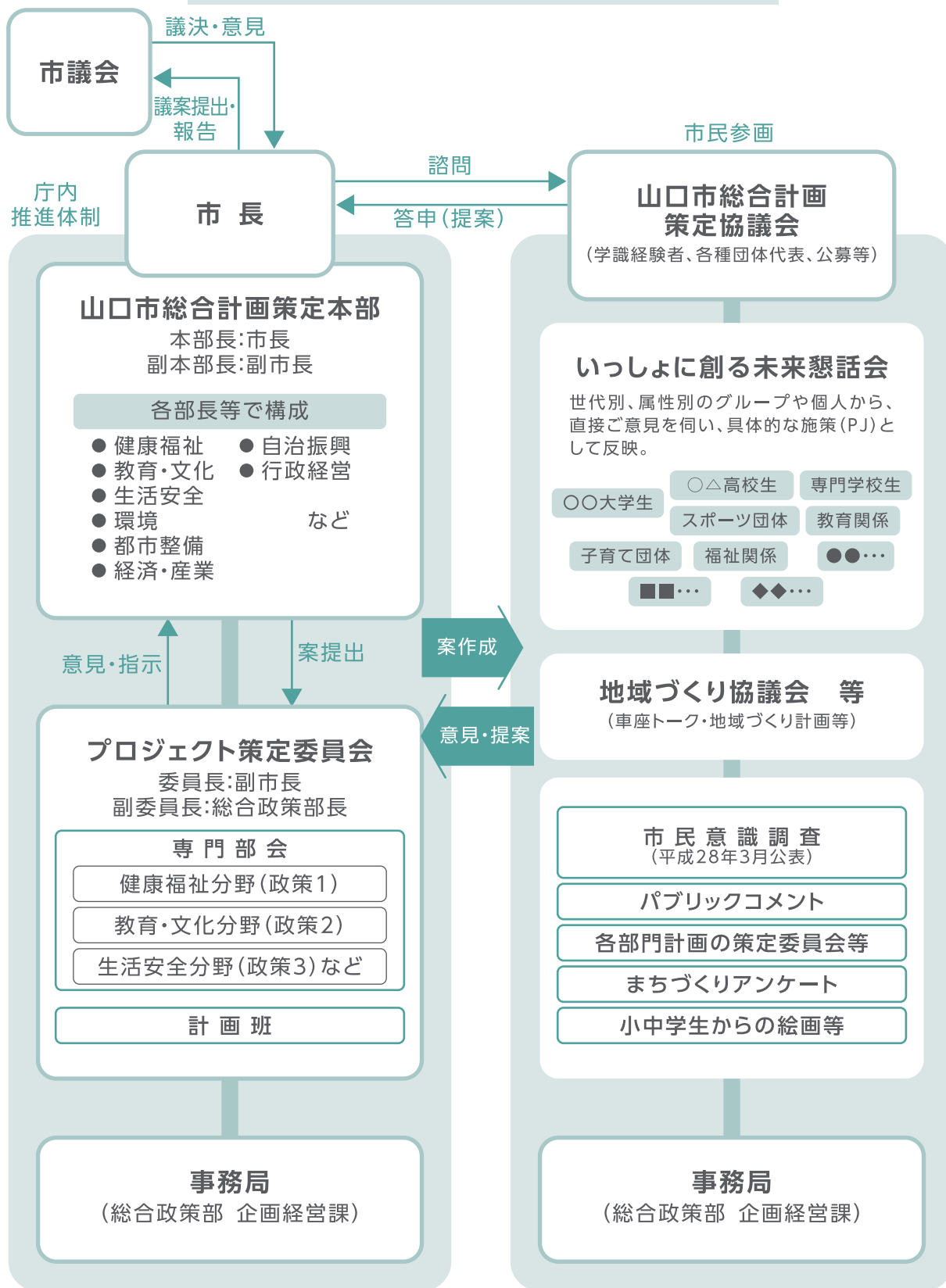
資料編

目次

① 策定体制	184
② 策定経緯	185
②-1 これまでの経緯	
②-2 山口市総合計画策定本部	
②-3 山口市総合計画プロジェクト策定委員会	
②-4 山口市総合計画策定協議会	
○ 諮問とその答申	
○ 委員名簿	
○ 総合計画策定協議概要	
②-5 いっしょに創る未来懇話会	
②-6 総合計画策定に関する山口市議会一般質問	
③ 「大好きなまち山口」絵画コンクール	262
④ 市民意識調査結果概要	269
⑤ パブリックコメント	278
⑥ 参考資料	285
⑦ 用語集	302

1 策 定 体 制

第二次山口市総合計画 策定体制図



② 策 定 経 緯

②-1 これまでの経緯

年	月	市民	市・市議会
27年度	9月	市民意識調査	
28年度	4月	総合計画策定協議会公募委員募集	
	5月		第1回山口市総合計画策定本部会議(23日)
	6月	第1回山口市総合計画策定協議会 諮問(3日) いっしょに創る未来懇話会(1回)	平成28年山口市議会第2回定例会
	7月	いっしょに創る未来懇話会(1回)	
	8月	いっしょに創る未来懇話会(2回) 第2回山口市総合計画策定協議会(19日)	プロジェクト策定委員会キックオフ会議(10日) 第2回山口市総合計画策定本部会議(8日)
	9月	いっしょに創る未来懇話会(8回)	平成28年山口市議会第4回定例会
	10月	いっしょに創る未来懇話会(4回)	第3回山口市総合計画策定本部会議(31日)
	11月	第3回山口市総合計画策定協議会(10日) いっしょに創る未来懇話会(2回)	プロジェクト策定委員会計画班情報交換会(22日)
	12月	いっしょに創る未来懇話会(7回)	平成28年山口市議会第6回定例会
	1月	いっしょに創る未来懇話会(5回)	
	2月	第4回山口市総合計画策定協議会(16日) いっしょに創る未来懇話会(6回)	第4回山口市総合計画策定本部会議(6日) 平成29年山口市議会第1回定例会
	3月	いっしょに創る未来懇話会(4回)	プロジェクト策定委員会中間報告(13日)
	29年度	5月	第5回山口市総合計画策定協議会(26日)
6月			平成29年山口市議会第2回定例会
7月		「大好きなまち山口」絵画コンクール実施 いっしょに創る未来懇話会(2回)	第6回山口市総合計画策定本部会議(3日)
9月			平成29年山口市議会第3回定例会
10月		第6回山口市総合計画策定協議会(18日)	第7回山口市総合計画策定本部会議(10日)
11月		第二次山口市総合計画(案)に対する パブリック・コメント実施	
1月		第7回山口市総合計画策定協議会(31日)	第8回山口市総合計画策定本部会議(22日)
2月		答申(8日)	第9回山口市総合計画策定本部会議(5日)

2-2 山口市総合計画策定本部

本部員

市	長
副	市 長
教	育 長
上	下 水 道 事 業 管 理 者
総	務 部 長
総	合 政 策 部 長
ふ	る さ と 創 生 部 長
地	域 生 活 部 長
環	境 部 長
健	康 福 祉 部 長
経	済 産 業 部 長
都	市 政 策 部 長
都	市 建 設 部 長
上	下 水 道 局 長
消	防 本 部 消 防 長
教	育 部 長
北	部 振 興 局 長
南	部 振 興 局 長

監	査 委 員 事 務 局 長
農	業 委 員 会 事 務 局 長
会	計 管 理 者
山	口 総 合 支 所 長
徳	地 総 合 支 所 長
阿	東 総 合 支 所 長
小	郡 総 合 支 所 長
秋	穂 総 合 支 所 長
阿	知 須 総 合 支 所 長
参	与
防	災 統 括 監
総	務 部 次 長
総	合 政 策 部 次 長
ふ	る さ と 創 生 部 次 長
地	域 生 活 部 次 長

2-3 山口市総合計画プロジェクト策定委員会

専門部会員名簿

健康福祉専門部会			
NO	所 属	職 位	氏 名
1	健康福祉部	次長	中川 孝
2	健康福祉部	補佐	石川 映子

教育・文化専門部会			
NO	所 属	職 位	氏 名
1	ふるさと創生部	次長	増田 肇
2	地域生活部(H28)	次長	磯部 素男
	地域生活部(H29)	次長	宮崎 高行
3	教育委員会(H28)	次長	末貞 収一
	教育委員会(H29)	次長	磯部 素男
4	ふるさと創生部	補佐	中村 定博
5	ふるさと創生部	副主幹	後藤 大介
6	地域生活部	補佐	山田 一夫
7	教育委員会	補佐	石川 暁男

生活安全専門部会			
NO	所属	職位	氏名
1	総務部(H28)	次長	宮崎 高行
	総務部(H29)	次長	村田 尚士
2	地域生活部(H28)	次長	磯部 素男
	地域生活部(H29)	次長	宮崎 高行
3	消防本部(総務担当)	兼次長	田中 功夫
4	総務部	補佐	松尾 彰
5	地域生活部	補佐	山田 一夫
6	消防本部	補佐	石川 直志

環境専門部会			
NO	所属	職位	氏名
1	環境部	次長	塩見 富士雄
2	上下水道局	次長	藤村 克彦
3	環境部	補佐	瀧本 英正
4	上下水道局(H28)	補佐	岡村 慎一
	上下水道局(H29)	補佐	杉田 則夫

都市整備専門部会			
NO	所属	職位	氏名
1	都市政策部	次長	坂本 公昭
2	都市建設部	次長	荒瀬 秀治
3	都市政策部	補佐	藤原 健司
4	都市建設部	補佐	高村 永悟

経済産業専門部会			
NO	所属	職位	氏名
1	経済産業部(H28)	次長	村田 尚士
	経済産業部(H29)	次長	飯田 学
2	ふるさと創生部	次長	増田 肇
3	経済産業部	補佐	吉賀 彰子
4	ふるさと創生部	補佐	中村 定博
5	ふるさと創生部	副主幹	後藤 大介

自治振興専門部会			
NO	所属	職位	氏名
1	地域生活部(H28)	次長	磯部 素男
	地域生活部(H29)	次長	宮崎 高行
2	地域生活部	補佐	山田 一夫

行政経営専門部会			
NO	所属	職位	氏名
1	総合政策部	次長	田中 和人
2	総務部(H28)	次長	宮崎 高行
	総務部(H29)	次長	村田 尚士
3	総合政策部	補佐	中村 武司
4	総務部	補佐	松尾 彰

計画班

【計画班①】住民自治・日常生活機能の確立			
NO	所 属	職 位	氏 名
班長	協働推進課	課長	山崎 里恵
1	協働推進課	副主幹	田中 新治
2	阿東地域交流センター	主幹	板垣 正
3	定住促進課	主幹	杉本 一平
4	高齢福祉課	主幹	末永 しのぶ
5	高齢福祉課	副主幹	岡谷 広子
6	交通政策課	副主幹	田邊 幸治

【計画班②】くらしの安心安全			
NO	所 属	職 位	氏 名
班長	防災危機管理課	課長	中村 千里
1	防災危機管理課	主幹	岸本 剛志
2	総合浸水対策室	主幹	大石 正憲
3	生活安全課	主幹	浅川 清治
4	消防本部	補佐	石川 直志
5	消防総務課	主任	三隅 祐一
6	環境政策課	主幹	竹内 遼

【計画班③】交流創出都市ブランドの形成			
NO	所 属	職 位	氏 名
班長	観光交流課	課長	岡村 萬利雄
1	創生推進課	副主幹	後藤 大介
2	観光交流課	主幹	白澤 靖子
3	スポーツ交流課(H28)	主幹	金田 貴之
	市議会事務局(H29)		
4	スポーツ交流課(H29)	主幹	赤野 誠
5	文化交流課	副主幹	横沼 美穂
6	広報広聴課	主幹	時安 洋
7	ふるさと産業振興課	主幹	金子 忠正
8	文化財保護課	副主幹	北島 大輔

【計画班④】雇用の場づくり			
NO	所 属	職 位	氏 名
班長	ふるさと産業振興課(H28)	課長	飯田 学
	ふるさと産業振興課(H29)	課長	眞砂 義明
1	ふるさと産業振興課(H28)	主幹	赤野 誠
	ふるさと産業振興課(H29)	主幹	久保 明宏
2	産業立地推進室	主幹	中川 修
3	産業立地推進室(H28)	主査	藤村 俊一
	産業立地推進室(H29)	主査	久保 謙一郎
4	農林政策課(H28)	主幹	藤井 幸夫
	徳地総合サービス課(H29)		
5	農林政策課(H29)	主幹	安村 崇
6	農林政策課(H28)	主幹	木原 園恵
	徳地農林振興事務所(H29)		
7	水産港湾課	主幹	原田 昌巳
8	農林政策課	主幹	伊藤 辰朗

【計画班⑤】山口・小郡都市核づくり			
NO	所 属	職 位	氏 名
班長	都市計画課	課長	清水 弘美
1	都市計画課	主幹	小野 智紀
2	中心市街地活性化推進室	主幹	中村 史朗
3	都市整備課	主幹	田中 秀実
4	創生推進課(H28)	主幹	金子 隆明
	創生推進課(H29)	課長	
5	新山口駅ターミナルパーク整備課	主幹	小林 由幸
6	ふるさと産業振興課(H28)	副主幹	来栖 佳明
	広報広聴課(H29)		
7	ふるさと産業振興課	副主幹	渡邊 辰行
8	文化交流課	副主幹	吉松 弘樹
9	観光交流課	主幹	藤村 伸一

【計画班⑥】都市空間の質向上による 居住機能の誘導			
NO	所 属	職 位	氏 名
班長	道路河川建設課	課長	八木 正之
1	建築課	副参事	山本 聖史
2	都市整備課	副主幹	浮田 豊裕
3	都市計画課	副主幹	春野 義則
4	管財課(H28)	主幹	田村 博明
	農林政策課(H29)		
5	管財課(H29)	副主幹	高橋 大介
6	生活安全課	副主幹	鈴木 伸彦
7	中心市街地活性化推進室	主査	三戸 貴宏
8	ふるさと産業振興課	副主幹	田邊 京子
9	環境政策課	主幹	福谷 拓則

【計画班⑦】子育て・教育			
NO	所 属	職 位	氏 名
班長	こども家庭課	課長	今井 宏二
1	こども家庭課 (家庭児童相談室)	室長	藤本 緑
2	こども家庭課	主幹	植村 亜星
3	保険年金課	主幹	秋本 浩生
4	健康増進課	主幹	重富 基至
5	教育総務課	主幹	石津 美香
6	学校教育課(H28)	主幹	杉田 則夫
	上下水道局(H29)	補佐	
7	学校教育課(H29)	主幹	塩見 道子
8	社会教育課	主幹	天野 原

【計画班⑧】健康都市づくり			
NO	所 属	職 位	氏 名
班長	健康増進課(H28)	課長	徳本 弘幸
	健康増進課(H29)	課長	河村 一郎
1	健康増進課	主幹	末岡 昭子
2	社会課	副主幹	嶋村 奈緒美
3	観光交流課	主査	町田 貢
	教育総務課(H29)		
4	観光交流課(H29)	副主幹	河村 謙吾
5	高齢福祉課	副主幹	樋元 美帆
6	介護保険課	主幹	渡辺 千絵
7	スポーツ交流課(H28)	主幹	田村 卓司
8	スポーツ交流課(H29)	副主幹	池田 恭子
9	保険年金課	主幹	植村 昇

【計画班⑨】若者や子育て世代の転入増加

NO	所 属	職 位	氏 名
班長	社会課	主査	國本 高明
1	情報管理課	主査	谷野 昇平
2	大歳地域交流センター	主事	山本 悟
3	高齢福祉課	主任技師	近藤 珠美
4	道路河川管理課	主任主事	井上 勇樹
5	白石地域交流センター	主事	里 和香奈
6	資産税課	主事	山根 寧文
7	道路河川建設課	技師	山本 直樹
8	定住促進課	主事	大谷 友香
H28年度政策研究グループとして実施			

②-4 山口市総合計画策定協議会

諮問とその答申

<市長から総合計画策定協議会への諮問>

企第30号
平成28年6月3日

山口市総合計画策定協議会
会長 田中 和広 様

山口市長 渡辺 純忠

第二次山口市総合計画の策定について(諮問)

第二次山口市総合計画を策定するにあたり、山口市総合計画策定協議会設置要綱第2条の規定に基づき、貴協議会に多角的、専門的見地から御意見をいただきたく、諮問いたします。

<総合計画策定協議会から市長への答申>

平成30年2月8日

山口市長 渡辺 純忠 様

山口市総合計画策定協議会
会長 田中 和広

第二次山口市総合計画の策定について(答申)

平成28年6月3日付け企第30号で諮問のありました第二次山口市総合計画の策定について、慎重に審議を重ねた結果、別紙「答申書」のとおり答申いたします。

答 申

本協議会は、平成28年(2016年)6月3日に「第二次山口市総合計画の策定」について諮問を受け、これまで7回の協議会を開催し、本市の現状と課題、目標とする将来都市像、目指すべき都市構造、重点プロジェクトなどについて、慎重に審議を行ってまいりました。第二次山口市総合計画(最終案)については、これまでの審議内容を十分に反映したものであり、適切であると認め、下記の意見を付して答申します。

記

1 「本市全体の発展」について

第二次山口市総合計画においては、「本市全体の発展」を目指すことを明確にされています。

また、本市全体の発展に向けて、都市部も農山村も共に発展するまちづくりを目指すことを掲げられ、都市拠点については、山口都市核と小郡都市核の特長に応じた発展の方向性を明確にされ、両都市核の活力の向上、本市全体の経済発展、生活関連機能サービスの向上につなげることとされています。また、地域拠点については、地域のことは地域で解決できる山口市らしい地域内分権を確立することで、市内21の地域で自主性や権限を持った、温かみのある地域づくりが可能となる体制をつくることを明らかにされています。

広大な市域を有する本市において、一極集中のまちづくりではなく、都市拠点や地域拠点ごとに機能分化や個性特化をしていくまちづくりが、本市全体の発展につながるという「好影響・好循環」の対流型のまちづくりの考え方を、次なる10年間の本市のまちづくりにおける市民の共通理念とされることにつきまして、高く評価いたします。

こうしたことから、まちづくり政策の柱として、「広域県央中核都市づくり」と「個性と安心の21地域づくり」を位置づけられることは、適切であると考え、その関連施策を確実に推進されるようお願いいたします。

2 「これが私のふるさと」について

本協議会で検討した「ふるさと」は、市民・地域・事業者・行政等の協働のもとで、自分たちで共に創り上げるもの、そして、温かくて、帰って来たくなるものであると考えました。

こうした中で、本総合計画においては、共通の指針として「これが私のふるさとだ」を、将来都市像の一節に掲げられており、市民一人ひとりのまちへの関わりのもとで、まちづくりに携わる実感が生まれ、ふるさとへの誇りや愛着を育んでいくようなまちを創造していかれることに、期待をしています。

この共通の指針のもとで、地域や市民が、自分自身の「ふるさと」を、自ら考え、行動し、「一歩前へ」進めることができる、挑戦することができる環境づくりが必要であると考えます。また、行政も、協働のまちづくりのもとで、これまで以上に挑戦し、地域や市民と共に汗をかき、職員一人ひとりの能力・資質向上に努めていただくことを期待します。

そのため、「ふるさと」である地域の現場が、十分な自主性と権限を有する中で、自らの地域資源を発掘し、フル活用するとともに、人材が活躍できる、個性ある21の地域づくりを着実に進めていただきたいと思います。すなわち、本市全体の発展は、21の地域の個性的なまちづくりの延長上にあり、「好影響・好循環」の対流型のまちづくりとしての21の地域連合体をかたちづくることを、地域づくりの基本的な方向性としていただきたいと考えます。

また、総人口や生産年齢人口が減少していく中で、AIやIOTといった新技術の導入も含めて、働き方改革を進め、若者、女性、高齢者、障がい者をはじめとした多様な人材が活躍できる環境づくりを進め、地方創生に携わる人材育成を図るとともに、本市の歴史文化資源をまちづくりに生かすことで、本市全体の生産性や創造性を高める取組を進め、さらに、空き家対策や移住定住の促進など、「ふるさと」を守る施策展開も図っていただきたいと考えます。

むすびに

本市が直面する人口減少と少子化、高齢社会の進展、そして中長期的な財政規模の縮小を見据える中であって、総合計画を「絵に描いた餅」に終わらせないよう、実効性のある計画推進が重要となります。

本協議会においてこれまで出された意見や提案などを踏まえ、行政計画である前期基本計画における8つの重点プロジェクト、そして、5つの政策の取組を、健全な財政運営を保ちながら、確実に推進されることを期待します。また、市民の共通指針である総合計画であるため、わかりやすい表現や用語を使用されるとともに、計画の達成状況を市民に周知していただきたいと思います。

「将来を担う子どもたちに誇れるようなまち」、「暮らしやすいまち」をオール山口市で創り上げていくことができる第二次山口市総合計画としていただきますことを切にお願いします。

委員名簿

(敬称略)		
	団体名	氏名
会長	山口大学 副学長	たなか かずひろ 田 中 和 広
副会長	山口県立大学 副学長	か と だ けいこ 加 登 田 恵 子
地域づくり	山口市地域おこし協力隊	ふ な せ はる か 船 瀬 春 香
	山口市自治会連合会 会長	し み す つとむ 清 水 力
環境	やまぐちエコ倶楽部	と よ た ま さ こ 豊 田 政 子
健康福祉	山口学芸大学 教授	もと ひろ あけみ 本 廣 明 美
	山口市社会福祉協議会 会長	は ら ま さ か つ 原 昌 克
産業・雇用	山口大学大学教育機構学生支援センター 教授	ひ ら お も と ひ こ 平 尾 元 彦
	山口商工会議所 会頭(前任)	さい とう むねふさ 齋 藤 宗 房
	山口商工会議所 会頭(後任)	か わ の や す し 河 野 康 志
	山口中央農業協同組合 代表理事組合長	や ま し た の ぶ お 山 下 信 雄
	山口阿東森林組合 代表理事組合長(前任)	や ま も と ひ で お 山 本 秀 生
	山口阿東森林組合 代表理事組合長(後任)	か ね こ て る さ と 金 子 輝 郷
	株式会社山口銀行 専務取締役 山口支店長	は ら だ つとむ 原 田 勉
都市基盤	山口大学大学院創成科学研究科 教授	い かる が し ん じ 鵜 心 治
	西日本旅客鉄道株式会社 山口支店長	あ さ い ま さ や す 浅 井 昌 容
	山口大学大学院 准教授	た き も と こう い ち 瀧 本 浩 一
	一般社団法人山口県宅建協会山口支部 山口支部長	に し む ら し ゅ ん じ 西 村 俊 爾
シティセールス	山口文化協会 会長	ま つ ば ら きよし 松 原 清
	山口観光コンベンション協会 専務理事	す ず き か つ ひ こ 鈴 木 克 彦
	山口市体育協会会長	お お ば た つ と し 大 庭 達 敏
	株式会社レノファ山口 代表取締役社長	か わ む ら た か し 河 村 孝
	株式会社サンデー山口 代表取締役社長	か い さ く ま さ と 開 作 真 人
行政	山口県総合企画部 山口県民局長(前任)	か ね こ た け し 金 子 大
	山口県総合企画部 山口県民局長(後任)	に し だ ひ で ゆ き 西 田 秀 行
市民公募委員	一般公募	な か む ら し ゅ う い ち 中 村 省 一
	一般公募	な が や す り え 枝 長 安 里 枝

1) 山口市総合計画における施策別の振り返りと検討の方向性

(1) 健康福祉分野

- 保育士不足の中ではあるが、人材確保といった量的拡充に加え、人材育成などの保育士の質についても取組を検討されること。
- 山口県全体の健康診断等の検診率が全国的にみても大変低い水準にあり、検診率アップに向けた取組の強化・充実が必要である。
- 福祉施設、介護施設の設置も考慮し、障がい者や高齢者を支援していく新しい地域包括ケアシステムの構築が必要である。
- 市域が広域化していることで、本市は複数の医療圏を有している。
- 市中心部を中心とした二次救急医療体制の維持に加え、周辺の農山漁村エリアでの医師の確保や、近隣市の医師会との連携も必要である。
- 山口の温泉や自然など、多様な地域資源を活用したレジャーや余暇の過ごし方を踏まえ、健康都市やまぐちの実現に向けた施策の展開を検討されること。
- 保育園整備については、若い世代が転入超過の傾向にある地域周辺で実施を検討されること。

<以上、第2回山口市総合計画策定協議会>

(2) 教育・文化分野

- 日本一本を読むまちづくりを実現する上で、学校図書館と市立図書館の活用に加え、市民の読書環境の充実について努めること。
- コミュニティスクールの実施について、学校と地域が一体となって子ども達を育ていけるよう、着実な施策展開に努められること。
- 県立美術館をはじめ、県立博物館や高等教育機関などと連携して、市内で開催される文化行事や教育講座について、市が一体的に情報発信を行い、市民参加の機会創出に努めること。
- 市内初となるプロスポーツチーム「レノファ山口FC」との連携による交流人口の拡大や地域経済の活性化など、まちづくりの視点を施策に反映されること。
- ペット医療や留学生のケアも重要と考えており、「ダイバシティやまぐち」といったキャッチフレーズのもと、施策に反映されること。
- 子育て支援、観光ニーズを踏まえ、山口産木材を活用した木質のおもちゃ広場の整備を検討されること。

<以上、第2回山口市総合計画策定協議会>

(3) 生活安全分野

- 水防法の改正により、「新たな浸水想定基準」に対する対策が必要となる。防災ガイドブックの改訂をはじめ、浸水対策の面では、ハード面・ソフト面の内容の再検討が必要である。
- 消防団は、水防法に地域の自主防災組織の指導的役割として位置づけられている。消防団と地域が一体となった地域防災担い手の育成が、計画に位置づけられる必要がある。
- 災害に対応する体制整備に関して、災害時における地域交流センターの役割を明確に記載すること。
- 安心・安全な暮らしを推進する施策のうち、防犯対策における成果指標では、犯罪の認知件数推移を指標の一つとして設定する必要がある。
- 他県で発生した大地震では、地震発生時の建物の倒壊による犠牲者が多数である。本市においても、直下型地震は過去に発生しており、地震発生後の対策のみならず、直下型地震への備えに軸足を置いた施策が講じられる必要がある。耐震は地震防災の根幹である。
- 総合計画では具体的な災害事案ごとに、事前予防策を位置づけることに努められたい。
- 行政任せにせず、自ら災害時の非常持出品の準備をする必要がある。
- 観光客についても要配慮者として計画を立てる必要がある。
- 安心と安全は、基本的に概念が違うという認識が必要である。
- 小中学校の避難所開設が迅速に実施できるよう、しっかり行政と学校の連携を図ること。
- 救急車の利用について指導を行う必要がある。

<以上、第3回山口市総合計画策定協議会>

(4) 環境分野

- 市民へのごみ分別方法の周知に関して、分別のしおりを配布するだけに留まらず、出前講座などの啓発が引き続き必要である。
- 小学4年生をはじめとする環境教育の推進により、20代から40代保護者とその子ども達は、ゴミ分別の意識が高い。
一方で、高齢者にとっては、分別が複雑化している問題がある。
今後、高齢社会や核家族化が進展していく中、ゴミ出しや分別が困難な高齢者への対応が必要である。
- ごみ排出量における事務系ゴミの割合が高い。削減に向けた施策の展開についても検討が必要である。
- 環境保全や環境美化等に関する意識啓発のため、榎野川で実施するクリーンキャンペーンを佐波川、阿武川水系に拡充することに努められたい。

<以上、第3回山口市総合計画策定協議会>

(5) 都市整備分野

- 山口市は、線引きを実施していないため、郊外スプロールが進む。
今後は、立地適正化計画との整合性も図りながら、郊外スプロールの抑制や、コンパクトなまちづくりについて、明記していく必要がある。
- 山口・小郡両都市核づくりに関し、それぞれの都市核の役割について明記する必要がある。
- 公共交通の維持やサービス水準について、将来ビジョンを明記する必要がある。
- 公共施設、公共スペースといった公共空間について、地域や民間開放することで、にぎわいの創出や新たな交流を生み、都市空間の質を向上させる施策の検討に努めること。
- 細部は、部門計画に委ねるものの将来ビジョンを総合計画で位置づける必要がある。
<以上、第3回山口市総合計画策定協議会>

(6) 経済・産業分野

- 湯田温泉を中心に外国人観光客が増加しており、宿泊客室数が不足している。こうしたキャパシティ不足を補うため、中山間地域での民泊受入なども今後、検討していく必要がある。
- 周辺自治体との広域的な観光地経営の視点に立った、行政やコンベンション協会など多様な主体との連携による組織体制(DMO)の構築について検討する必要がある。
また、交流人口の拡大に向けて、連携中枢都市圏を形成する市町において、観光資源を共有し、つなぐことで、圏域内を周遊する新たな取組が必要である。
- 高齢化が進展する農業分野において、生産者の所得向上に向けた取組の一つとして、6次産業化の促進や農商工連携の促進が必要である。
- 過去5年間ににおける市内の人口移動では、小郡都市核へ一旦転入し、そこから山口都市核へ移り住む傾向にあることから産業の集積だけでは、人口の増加につながらない。生涯住み続けたい場所は、文化であり生活の質を高める環境がある場所であり、山口都市核と小郡都市核のそれぞれの特性を活かしたまちづくりを施策に反映することが必要である。
- 観光誘客につながる物産のPRは重要である。
- 女性の活躍を進めるためにも、夜間保育の環境整備が必要である。
- 小中学校において、地元産食材を学校給食に利活用促進されること。
- 高齢化の進展を鑑み、森林境界明確化事業の促進を加速する必要がある。
- 湯田温泉の魅力創造のためには、市民が日常的に温泉を利用し、温泉に愛着をもっていたかく、まちづくりを進めていく必要がある。
- 宿泊客数だけでなく、市民が湯田温泉に入浴する年間回数も目標数値として検討されること。
- 雇用政策について、県と市で明確に役割分担をし、効果的な事業展開を図られること。
- 人口増加は、産業集積だけに留まるものではなく、生活の質を高める環境の整備が重要。
<以上、第4回山口市総合計画策定協議会>

(7) 自治振興分野

- 若者や高齢者の交流が活発化できるよう、交通手段のシェア化など新たな方策を検討し、都市部と周辺地域のアクセス性を高めることに努めること。
- 多様な情報伝達手段があふれている中で、効果的な情報発信のあり方について検討する必要がある。
- 人口減少が進む地域における小さな拠点づくりをはじめとした、日常生活機能などの集積や住民サービスの利便性の向上について努めること。
- 小さな拠点づくりは、行政サービス、医療、日常生活機能をセットにした取組とすること。
<以上、第4回山口市総合計画策定協議会>
- 公共交通が充実した首都圏からの移住者の増加を目指すなか、先駆的に、「高齢者が乗るマイカーは全て自動運転車」となるまちづくりを検討してはどうか。
<以上、意見書にて>

(8) 行政経営分野

- 「まち・ひと・しごと総合戦略」において、若者が働きやすい環境、子育てしやすい環境の整備について確保することに努めること。そのためにも今後の働き方改革の方向性について、総合計画で具体化していくことも検討が必要。
- 鷲流狂言をはじめ、山口にしかない貴重な文化や地域資源について、次なる10年では、具体的なビジョンをもって磨き上げていくことが必要。
- 連携中枢都市圏の形成について、人口減少を食い止めるには、いかに交流人口を増加させ、地域の活性化につなげていくかが必要。
<以上、第4回山口市総合計画策定協議会>

2) 山口市総合計画（骨子案）について

(1) 将来都市像について「豊かな暮らしと 交流と創造のまち山口」 ～これが私の故里だ～

- 「ボリュームからクオリティ」というように、これまで量ばかりを求めていたが、これからは、ものの本質を見極めていくことも必要。
- 農地の活用は、豊かな暮らしに加え心の豊かさにもつながると考える。明治維新150年などを契機に遊休農地の美化運動により、こうした将来都市像の実現に向けた協力もできると考える。
- 「これが私の故里だ」これは、中原中也の「帰郷」の詩だと思うが、詩で使用される意味と、ここで使用する意味は少しニュアンスが違うのではないか。普通に「故郷」を使用されても良いのではないか。

<以上、第5回山口市総合計画策定協議会>

- 中原中也「ふるさと」の解釈について、誇らしげにふるさとを語っているとは思えません。懐疑的に述べられているように思います。また、「豊かな暮らしと」の「と」は必要ないのではないか。
- 将来都市像のフレーズについて、①「豊かな暮らし」②「交流」③「創造」の三つの視点から解説されている。さらに、①「創造」は、「共に創る」と「シビックプライド」の二点に分けて解説されている。シビックプライドは、まちづくりの到達目標的なものと考え。そのため、シビックプライドは、「創造」の項目で解説されるのではなく、もっと総括的な箇所
で解説されてはどうか。

<以上、意見書にて>

(2) 数値によるまちの姿について(人口、交流人口、ふるさと指標)

- 指標の設定、見せ方がポイントである。例えば、山口市において図書館があるとか、環境整備だけでなく、図書館の利用率であるとか、YCAMの中で最先端の情報やアートに触れた人数など、「これが私の故里だ」と言えるような指標の設定をお願いしたい。
- 交流人口の指標は、実は測定する人にしか理解できていない、概念の曖昧な指標である。交流人口の指標を掲載するのであれば、測定の考え方(測定方法)についてきちんと定義する必要がある。
- 「数値によるまちの姿」で3つの指標を設定されることは良いと思う。特にふるさと指標は、民間で言う顧客満足度であり、市民満足度としての観点からアンケートをとっていただきたい。
- 交流人口で言えば、昔は観光であったが、現在は、スポーツ、文化、サークル活動など観光だけに留まらず、多くの交流機会を通じて山口市に人が訪れる。こうした意味で諸施策を展開していただきたい。
- ふるさと指標を測っていくことは素晴らしい。指標の取り方は大切で、例えば、市立図書館で本を借りた人数ではなく、1年間にどれだけ本を読んでいるのかといった具体的な数字を取ることが重要である。

<以上、第5回山口市総合計画策定協議会>

- 市の人口の約半数が、都市拠点に集中する中で、今後10年間に定住人口19万人を「2つの都市拠点と21の小さな拠点」にどのように定住させていくのか。まずは、行政福祉サービス、医療サービス、教育のほか、各拠点を結ぶネットワークアクセスの構築など、各地域拠点の具体的な計画を立て、市民が安心して生活できる体制を構築する「定住環境」を整えることが重要である。このような体制が構築した上で、はじめて交流人口600万人の受入ができる考える。

<以上、意見書にて>

(3) 目指すまちの姿(政策グループ)

- 5つの政策グループは大変良く考えられている。山口市はこれだと思われるものを自分なりに考えたとき、「子どもが一番育てやすいまち」という部分を出せたら良い。
- 健康福祉分野において、医師会と連携し在宅医療の充実に努められたい。

<以上、第5回山口市総合計画策定協議会>

(4) 目指すべき都市構造

- 人口が市の一部に集中しているのは、市民のライフスタイルやニーズを表している。そうした中で、都市拠点、地域拠点、生活拠点のそれぞれの役割や機能を持たせて、まちづくりを進めることは良い。
 - 地域の実情に応じて具体的な指標を設定し、基本計画の中で取り組んでいただきたい。
- <以上、第5回山口市総合計画策定協議会>

(5) その他

- 市民が湯田温泉を利用することになれば、湯田温泉の良いところも広まるのではないか。
 - 様々な業種において人材不足が言われている。女性や高齢者に働いていただく環境づくりも重要である。
 - 山口市の人口推移のグラフに加え、観光客の滞留時間や、交流人口の拡大を示す表があっても良いのではないか。
 - プロスポーツ「レノファ山口FC」を活用し、交流人口の拡大に加え、山口の情報発信をすることも可能である。
- <以上、第5回山口市総合計画策定協議会>

3) 山口市総合計画（素案）について

(1) 基本構想について

- 「これが私のふるさとだ」の「ふるさと」が平仮名表記となり、共感が持てる。
 - 21地域の特長を生かした地域づくりを進める方向性が基本構想に位置づけられており良い。
 - 人口シミュレーションは、様々な事態に備えて、人口増減の予測幅をある程度の余裕をもって、柔軟な対応ができるようにされたい。
 - 地域拠点構築で、総合支所の機能強化を盛り込まれたのは非常に良い。
 - 地域ごとにそれぞれ異なる特長を出したまちづくりを地域が考えることは大変重要。
 - 市民一人ひとりが当事者意識を持ち、自分たちのふるさとを我々がどう考えるか。温かくて、皆が帰ってこられるような、そういうふるさとを目指していく総合計画だと感じた。
- <以上、第6回山口市総合計画策定協議会>

(2) 前期基本計画について

- 新山口駅から山口線へのつながりが少ない。列車の増便に向けた施策の取組等も必要がある。
- 重点プロジェクトと施策の取組みについて、リンゴの木を使った表現は分かりやすい、ただ、プロジェクトの名称は統一的な表現方法に揃えていただきたい。
- プロジェクト3「教育・子育てなら山口」において、特別支援の取組についても検討していただきたい。
- プロジェクト6「安全安心で美しい住環境」において、「美しい」よりも「快適」、「豊かな」の方が深い意味を持つのではないか。
- 子育てから復職する女性について、有資格者の復職や管理職への登用など、女性の活躍できる環境づくりを進めていただきたい。
- 交流人口の増加に向けて、観光客のニーズを重視した「マーケットイン」の視点が重要である。
- 山口市の観光資源も点在しており、それらを周遊する仕組みや、それらを紹介するポータルサイトも必要である。こうした仕組みづくりの財源として、入湯税を利用することも検討されたい。
- 山口市は、地域の特長に応じた様々なスポーツが楽しめる場所であり、地域資源を生かしたスポーツイベント等の交流ができたらと考える。
- 高校卒業後に市内に若者を留めるには、サービス業の充実が有効であり、山口県央連携都市圏域の取組の中でも検討されたい。
- KPIのひとつに「市内の温泉を利用した市民の割合」があるが、非常に期待している。市民が年間に5～6回は利用するようになって欲しい。
- 避難所運営体制の充実とあるが、避難所そのものの数の充実も必要と考える。

<以上、第6回山口市総合計画策定協議会>

4) 山口市総合計画（最終案）について

- 施策1-2「健康づくりの推進と地域医療の充実」について、健康づくりの推進は高齢社会を迎えるにあたっては重要であり、推進していただきたい。
- 施策2-1「教育環境の充実と整備」について、「知・徳・体」から考えると、「豊かな心」、「確かな学力」に加えて、ぜひ、体力の面も記載していただきたい。
- 生活拠点について、説明を追加して分かりやすくしていただきたい。
- 将来都市像にある「交流」には、コミュニケーションが不可欠である。
文字として「コミュニケーション」を加えていただきたい。
- 財政見通しにおいて、山口市の財政状況が市民にも伝わりやすいKPIを設定してはいか
がか。
- 観光振興について、二次交通についても検討する必要がある。
- 「減煙のまちづくり」についても検討いただきたい。
- 本庁舎の位置について、本庁舎の整備に関する検討委員会では、新亀山公園も提案さ
れていたと思うので、「現本庁舎及び中央駐車場の所在地」の箇所に併記いただくか、周
辺部の文字を記入していただきたい。
- 協議会は計画案について審議し、答申する立場にある。計画内容を認めた責任まで委員
が負わされることはない。
- KPIに関して、市民アンケートを利用したものが多い。アンケートは、事業の進捗状況や
その成果に関わらず、数値が上下することもある。
そのため、事業の進捗状況や、達成状況について市民にしっかり伝えていくことが必要
である。
- 5つの政策グループや8つの重点プロジェクトの目標を達成するため、総合支所、地域住
民とテーマを決めて意見交換していくことが必要。

<以上、第7回山口市総合計画策定協議会>

5) 答申書案について

- 「ふるさと」は「自分たちで何とかするもの」と記載されているが、市民だけで創るのではなく、行政と市民が一緒になってつくるもの。そういったニュアンスが伝わると良い。
 - 個性的な21の地域をどう連合体にするのかがポイント。対流のイメージとして好影響・好循環につながることを強調したい。
 - 若者という言葉が、答申で表現できると良い。
 - 都市の表記について、意味を明確にされたい。
 - 山口市の空き家率は、全国平均を上回る。人口減少と空き家について、答申書でもふれたい。
 - 「オール山口」の山口は、山口県ともとれる。市を明確に表現したい。
 - 市内21の地域づくりの延長線上に、本市全体の発展があるところを表現したい。
- <以上、第7回山口市総合計画策定協議会>